

上信会越・谷川岳 一ノ倉沢烏帽子沢奥壁南稜

大濱

【日時】 2013年11月3日（日）晴れ

【メンバー】 L飯田、佐藤り、大濱

今年の夏まで、アルパインは、自分にはまだ遠い先の話だと思っていた。が、先輩方が何回も岩トレに付き合っ下さり、ずっと憧れていた南稜に行けることになった。南稜未踏だったサトリカさんにザイルを組んで頂き、デビューサポートはもう何度目かという飯田さんが同行して下さる。某TV番組の山企画のようなサポート態勢の下、無事デビューを果たしてきました！



【幻の釜と滝】

4:50 ロープウェイ駅を出発し、ヘッドンを付けて歩く。1時間程で一ノ倉沢出合に到着。ここで漸く辺りが明るくなってきた。

沢沿いに進み、ヒョングリの滝を右岸から高巻き、懸垂で谷底に降りる。雪渓はほとんど残っておらず、神秘的な釜が段々に並んでいた。夏なら飛び込みたいところだが、この釜が雪渓の下から姿を現すのは晩秋のこの時期のみとのこと。

ここから左岸に渡り、テールリッジへ向かう。あれが衝立岩、一ノ沢、二ノ沢…etc.と教えて頂く。名所だらけの観光ツアーのようだった（足元はだいぶスリリングだけど）。凹状岩壁の取り付きで、先行していた栗原・大田原パーティーが準備中。私達は先の南稜テラスを目指す。

7:35 南稜テラスに到着すると、先行の3人（知り合いだった）が準備中だった。間隔を空けるた

めにのんびりしていたら、後続の4人（こっちも知り合いだった！）が到着した。今日、一ノ倉沢に入っているのは、我々の2パーティーを含めたこの4組のみ。

8:10 登攀開始。

1ピッチ目（IV～IV+、佐藤リード）



核心は上部のチムニーとのこと。けれど、沢で慣れているせいか、サトリカさんはあっさりと抜けていった。

2ピッチ目(IV、大濱リード)

フェースを登る。高度感に緊張して、残置ハーケンが見つけれずキョロキョロ。

3ピッチ目(II、飯田リード)

ラストの核心ピッチをサトリカさんに充てるため、草付き帯は飯田さんにリードして頂く。が、歩道を歩くような速さなので、ビレイが追い付かない。

4ピッチ目(III、佐藤リード)

トポでは、凹角に入ったところのテラスで一旦切っているが、繋げて馬の背リッジの下部までリードして頂いた。



5ピッチ目(III~IV+, 大濱リード)

馬の背リッジに乗ると、一ノ倉沢が一望できる。リッジなので眼前の壁もなく、300° くらいグルリと見渡せて興奮する。と、「大濱さ〜ん」と声が聞こえた。見ると、凹状に登攀中の大田原さんが手を振ってくれている。今いる場所を忘れて一瞬和んでしまった。

6ピッチ目(V-, 佐藤リード)

【凹状から見た馬の背リッジ】 最終ピッチの上部は垂直の壁で、ここが一番の核心。壁下の奥にガバが隠れているそうだが、サトリカさんはすんなりとそれを見つけて、簡単そうに登っていった。私はそれを見ていたにも関わらずA0でションボリ。

11:20 登攀終了。

バンドで休憩後、左側の支点から懸垂で下降を開始する。途中でザイルが引っかかり、登り返す場面もあったが、無事に南稜テラスまで到着。凹状ルートの下で待っていて下さった栗原・大田原パーティーと合流。

15:10 一ノ倉沢出合到着。紅葉真っ盛りの中をロープウェイ駅までてくてく歩く。



楽しくてあつという間、夢のような一日だった。夏から「南陵南陵」と騒ぎ続けていたため(もっと言うなら数年前、登攀具を揃え始めたときから騒いでた)、終わってしまって少し寂しい。

【行程】 ロープウェイ駅(4:50)〜一ノ倉沢出合(5:50)〜テールリッジ(6:50)〜南稜テラス(7:35/8:10)〜バンド(11:20/11:40)〜南稜テラス(13:30)〜一ノ倉沢出合(15:10)

【地形図】 水上・茂倉岳